

# 食用バラ、6次産業化に力

埼玉・深谷市  
ROSE LABO 食品・化粧品が人気

【埼玉】深谷市のROSE LABO（ローズラボ）は、食用バラの生産から商品開発・販売まで、6次産業化に取り



組んでいる。バラを原料にした食品や化粧品は女性から人気で、業績も好調だ。  
代表の田中綾華さん

（30）は、学生時代に食用のバラがあることを知り、農家で2年間研修した後、2015年に同社を設立した。現在、オリジナル品種「24（トゥエンティフォー）」など食用バラ3品種を栽培している。

「農業を女性が活躍できる職業にしたい」という思いから、積極的に女性を採用し、今は社員の

食べられるバラのジャム  
「コンフィチュール  
ーズ」を手に田中さん

約7割が女性。定期的に社員全員で10年後の会社の将来像を話し合う場を開くなど、社員の意識を高めると良いアイデアが出てくるという。

同社のバラのジャムは、花びらを崩さず形を保ったまま入れている。バラ本来の香りだけでなく、目で華やかさも楽しめ、紅茶やスイーツに使うと抜群に映える。「食べられるバラは五感で感じられるのが魅力」だという。

「農業はアイデア次第でさまざまなことにチャレンジできる。女性もっと活躍できるよう、働きやすい環境づくりをがんばりたい」と田中さんは明るく笑顔で話す。